

《各学年の特徴》

- 1年 すすんで造形活動に取り組み、表現活動を楽しんでいる児童が多い。道具を適切に使うことが難しい児童もいる。
- 2年 めあてに沿って表現することができる。道具を適切に使うことが難しい児童もいる。
- 3年 授業に対して積極的で、造形活動に興味・関心をもって制作できる児童が多い。考えたことを作品や言葉で表現できている。
- 4年 授業に対し積極的で、素早く活動に取り組む児童が多い。大胆に表現でき、考えたことを作品や言葉で表現できている。
- 5年 自分たちで主体的に活動に取り組める児童が多い。言葉や文章で伝えたいことを表現する力がある。
- 6年 自分たちで主体的に活動に取り組める児童が多い。アイデアを出す時に悩む児童もいる。

育てたい力（課題）

- 1年 道具を適切に扱い、豊かな発想で表現する力。
- 2年 めあてに沿って、道具を適切に扱い、豊かな発想で表現する力。
- 3年 新しく扱う材料を正しく扱い、材料を基にした発想ができる力。
- 4年 道具を安全に使用し、作品を通して伝えたいことを表現する力。
- 5年 主体的に考え、見通しを立てて学習に取り組む力。
- 6年 主体的に考え、表したいことから作品を作り、表現する力。

☆授業改善の具体策☆

- ・担任との連携 ・学校行事との関連化 ・安全指導の徹底
- ・素材・材料の工夫 ・伝えたいことを表す活動 ・ホワイトボードの活用
- ・友達の作品を鑑賞し合う場の設定 ・ICT機器の活用

《知識及び技能》

- 低学年 道具の使い方や、制作の手順などを、ICT機器を活用して、視覚的に理解しやすくする。
- 中学年 新しく使う素材や材料の説明、安全指導を繰り返し行う。また、ICT機器を活用し、題材に関連する扱い方の説明を行う。
- 高学年 作品が日常生活とどのように結び付くか、考える活動を取り入れる。さらに、前学年までの材料、道具を生かせる活動を取り入れる。

《思考力・判断力・表現力等》

- 低学年 導入時に絵本を読む等、作品の世界に入り込めるようにし、児童の発想を認める声かけをしたり、見本を複数提示したりすることで、表現の幅を広げる。
- 中学年 ICT機器や、図工室にある図鑑や資料を使い、表現の幅を広げる。また、担任と連携を取り、児童の実態に合わせた指導を行う。
- 高学年 身近に感じられる題材の提示をすることで、児童の発想力をさらに深める。

《学びに向かう力》

- 低学年 友達と関わり合いながら創作活動を行うことで、自分の作品をより良いものにしようとする態度を養う。
- 中学年 グループ活動を行う。友達の作品の良いと思うところと、その理由を話し合うことで、友達の豊かな考えを知ろうとする態度を養う。
- 高学年 作品から作者の考えを読み取る活動を工夫することで、主体的に鑑賞する態度を養う。また、前学年までの材料を組み合わせることで、より良い作品にしようとする主体的に創造する態度を養う。